

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ数
視能訓練士	1名
歯科衛生士	3名（常勤2名 非常勤1名）

【視能訓練士】

＜特色と概要＞

救命救急センターに搬送された頭部外傷などによる眼窩骨折や脳疾患の患者の眼科検査、全身疾患に合併する眼疾患、入院中の眼症状や眼疾患のある患者の眼科検査を行っている。

また、健診や人間ドックをはじめ、航空身体検査やVDT検査(情報機器作業に関する健康診断)などの特殊な眼科健診の検査も行っている。

当院における検査項目は、視力検査、屈折検査、眼圧検査、視野検査、眼位・眼球運動検査、視神経検査、眼球突出度検査、両眼視機能検査、調節検査、色覚検査、網膜電図検査、角膜形状解析検査、角膜内皮検査、眼底写真撮影検査、眼底3次元画像解析検査などである。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

感染対策を徹底した中で、外来での検査を安全に行うことができた。また、医師・看護師と連携して、円滑に外来診療が行えるように協力し合うことで、チーム医療の実践ができた。

入院患者については、患者の全身状態を考えながら、検査の優先順位を組み立て、限られた時間で必要な検査を行えるように努めた。

一方で、日々の外来診療において、待ち時間が少なくなるように、医師・看護師と調整しているが、検査が集中した時は、待ち時間が発生していることが反省点である。さらに、円滑に検査の受け入れができる体制を作り、患者への負担を軽減し、効率よく検査を行うことで、患者サービスの向上につなげる。

視能訓練士として検査を行うだけでなく、患者の不安を取り除けるように寄り添って、検査を行っていただけるように心がけたい。

また、検査の精度を高め、少しでも医師の診断の助けになるように、視能訓練士として眼科診療における役割を果たしていきたい。

【歯科衛生士】

＜特色と概要＞

泉州地域の中核病院である、りんくう総合医療センターで顎・口腔領域の外科を専門とする口腔外科に従事し、主に下記の診療にあたっている。

- (1) 一般歯科医院での治療が困難な患者の診察や外来小手術の診療補助
- (2) 入院患者の歯科治療の診療補助、専門的口腔ケア
- (3) 全身麻酔手術や化学療法、放射線療法を受けられる患者の口腔衛生指導、専門的口腔ケア
- (4) 周産期センターにおける両親学級での口腔衛生指導
- (5) 地域の医療機関との連携体制における外来小手術の予約取得

特に専門的口腔ケアは歯科疾患の予防や治療のみならず、がん患者の術後感染や誤嚥性肺炎などの予防効果に寄与することが分かっており、それにより術後在院日数、抗菌薬投与期間の減少、医療費削減等に貢献できる。

いずれにおいても多種多様な全身疾患や不安など心の問題を抱えている患者に配慮しながら、より良い医療を提供できるよう努めている。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

今年度の周術期口腔機能管理(消化器外科)の件数は57件から173件となった。

口腔機能管理の必要性が重視される中、対象は消化器外科に加えて呼吸器外科、乳腺外科も加わり、更に造血幹細胞移植患者やステロイド療法前、放射線治療前のスクリーニングに伴う口腔ケア依頼も増加している。

歯科衛生士が非常勤から常勤になったことで口腔ケアの件数増加に対応できる体制に近づきつつあるが、しかし、その一方で診療室(診察台2台)の拡充が困難な状態にあり、需要に対する供給は頭打ちとなってきている。

コロナ禍において休止していた両親学級は再開した。

今後も他科からの口腔ケア依頼に対して継続的に対応していくが、診療室の拡充が得られたときに備えて歯科衛生士の体制強化を目指したい。

多職種の一員として、患者を口腔ケアで支援していきたい。

両親学級においては将来的にはオンライン指導を念頭に置いた、指導媒体の充実を図りたい。